

## 事務効率性の説明

成果指標 の卒業率が低いことは、事務効率性の観点からは、極めて効率が悪い。休学・退学にいたるまでの間、本人・保証人（保護者）との面接指導や電話での連絡・相談、関係者への報告、書類上の手続きなど、煩雑な業務がある。学生が、欠席せずに生き生きして登校し、勉学に励むことが、事務効率性を最も高めるため、今後とも「怠学させない、休学させない、退学させない」を合言葉に、教職員一丸となって努力していきたいと考える。

成果指標 の国家試験についても、不合格者が出ると、卒業してしまったその個人への、個別指導が必要となり事務量が増える。その点、平成19年度は100%の合格であり、成果を出しているので問題ない。

成果指標 の教育活動に関しては、講師の異動が多いと事務量が増大する。医師不足により、医師である講師の変更および講義時間等の変更が多いことに伴う事務量が増大している。

成果指標 の行政指導を受けていない点は、報告書作成が不要の点から事務効率が良いと判断できる。

なお、成果指標にはないが、学生への連絡事項には携帯メールを活用し、学生との指導のやり取りについてもメールを活用している。また、教員の研究環境の整備としてはパソコン（一人1台）、インターネット接続、研究室（2人に1部屋とはいえ、国の基準に沿った教員研究室を確保している）といった設備面が良い点は評価できる。教員研究室において、ながら作業ではなく、集中して作業が行えるため、作業効率が高く、経済効率性の向上に寄与している。さらに、教職員全員が、パソコンに習熟しているため、ファイルの電子化や共有化が円滑にでき、事務作業上の効率は極めて良い。

## 必要性の説明

質の高い看護師を養成するのが、本校の使命であるため、学生への教育活動は極めて必要度が高い。また、質の高い学生を養成するために、指導する立場の教員の研究活動を支援することは、めまぐるしく変革している医療環境を考えると、学生への教育活動とともに極めて必要な事業である。

教育活動については、植物を育てるのと同じである。よい環境（土壌改良）の下で、よい学生（種）を選び、最大限の教育活動（光と水を十分に注ぐ）を行うことである。心の豊かさをもたらすであろうゆとりある学舎は、10年前に10年後を見据えて建造された。しかし、10年経った今、様々な設備の更新時期を迎えている。医療環境も大きく変わり、10年前には考えることもなかった患者の権利の主張も際立って強まり、入院期間の短縮により、患者の重症度も増している。さらに、社会の看護師への要求も高度化し、卒業時に求められる看護技術の水準も高くなっている。患者の医療安全を守るために、シミュレーターを用いて、学校内でしっかり実技訓練をして、病院実習をすることが必要となってきた。看護師養成機関として、シミュレーターなどの必要な備品を整備し、学習環境を整えることが急務だと考える。

次に「種」となる学生の選定である。どんないい環境であったとしても、発芽しない種ではだめである。一般入試、推薦入試に次いで社会人入試を取り入れた。オープンキャンパスでは、器用度チェックなどを取り入れ、適性のある者を選定しようと努力している。蒲郡という地域特性を踏まえた中で、少しでも、いい学生（種）を手に入れることが最重要課題と認識している。

教育活動（水や光）については、途切れることなく降り注ぐことが重要である。教員の資質向上については、国においても重要視している。また、質だけでなく、人数も重要な因子である。現実には、専門看護師や認定看護師というキャリアアップにつながる卒後教育が充実してきているので、教員志望者は非常に減少している。質の高い教員を確保することは、非常に難しい現状であり、学生確保と同様重要な課題である。

以上より、環境を整えること、いい学生を確保すること、いい教育活動ができる教員を確保することは、本校の設置目的である「地域社会にくらす人々の健康と福祉に貢献できる看護師を養成する」を達成する上で、必要不可欠であると考えている。

また、看護師養成を充実させることは、医師不足の緩和に貢献し、高齢者の多い蒲郡市の高齢者医療を維持していく上で必要な施策であると考えている。